



特集

日々の生活に彩りを

# そこに 花がある 暮らし

圃産業課農政係 ☎0943-32-1841

さまざまな場面で、私たちの生活を彩ってくれる、花の存在。空間を華やかにするだけでなく、眺めたり香りを嗅いだりすることで、ストレスの軽減や癒やしの効果が期待できます。

今回の特集では、広川町で栽培している花の種類や歴史、福岡県の出荷量の全国に占める割合をご紹介します。さらに、広川町の花の生産者にインタビューし、栽培にかける想いなどを伺いました。

昭和58年に広川町を代表する花として菊が制定されました。手間をかけて花を咲かせることから「優しい心と喜びを育てる町」を表しています。昭和27年に広川町での栽培が始まり、昭和46年に福岡県園芸試験場で電照技術が生まれ、八女電照菊の基礎となりました。広川町では菊のほか、ガーベラやバラ、あじさい、ユリなどが栽培されています。

### 広川町の花

### 実はいろいろある、花の日

4月18日「ガーベラの日」

「よいはな」の語呂合わせに加え、4月が出荷最盛期であり、昭和33年4月に日本で初めて名称登録されたことに由来します。

6月2日「ローズの日」

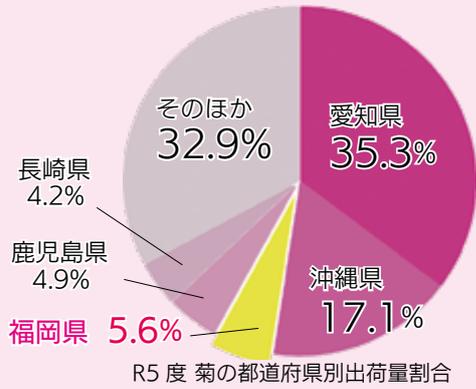
「ローズ」の語呂合わせに加え、バラが美しく咲く季節であることに由来します。大切な人にバラを贈り、感謝や愛を伝える記念日とされています。

6月6日「あじさいの日」

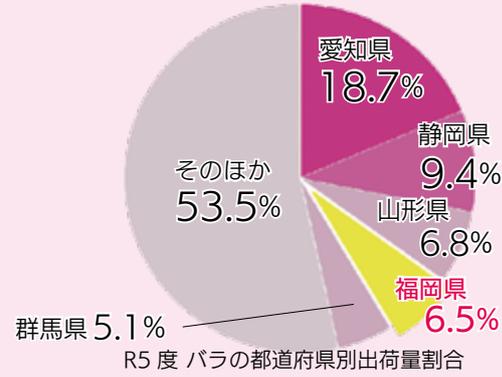
昔、日本では魔除けとして6の付く日にあじさいを軒下などに吊るしていたそうです。このことから、最盛期である6月の6日に制定されました。

9月9日は「菊の日」

「重陽の節句」「菊の節句」と呼ばれ、中国から伝わった風習で、菊の花びらを杯に浮かべて酒を飲み、菊の料理を食べて不老長寿や無病息災を祈ったことに由来します。



愛知県…41,900 万本  
 沖縄県…20,270 万本  
**全国 3 位**  
**福岡県…6,680 万本**  
 鹿児島県…5,800 万本  
 長崎県…4,950 万本



愛知県…34,400 万本  
 静岡県…17,300 万本  
 山形県…12,500 万本  
**全国 4 位**  
**福岡県…11,900 万本**  
 群馬県…9,400 万本

ガーベラの購入はこちらまで↓↓↓



〒 834-0121  
 広川町大字広川 1398  
 ※営業時間はお問い合わせください  
 ☎ 0942-52-9527 (JA 広川地区  
 ガーベラ・パッキングセンター)

バラやユリなどの購入はこちらまで↓↓↓



〒 834-0121  
 広川町大字広川 382-6  
 ※営業時間はお問い合わせください  
 ☎ 090-5725-8348 (園田)

スプレー菊の購入はこちらまで↓↓↓



〒 834-0114  
 広川町大字太田 1020-4  
 ※営業時間はお問い合わせください  
 ☎ 090-2398-0389 (鶴)

# プロフェッショナル

## 生 産 の 流 儀

広川町の花き生産者に、就農した背景や栽培にかける思いなどをインタビューしました。



JA ふうおか八女代表理事組合長  
野中公彦さん

### カサブランカに魅せられて

19歳〜27歳の農協職員時代に、これからの農業は何をつくれば儲かるかを考えていました。日本がバブル期に入り、お金が動くこの時代では、男性が女性に花束をプレゼントする光景が頻繁に見られました。その中でも特に人気だったのが、ユリの品種である「カサブランカ」。当時国内でユリの栽培をしていた、高知県や新潟県に単独で視察に行き、花の栽培を生業にすることを決めます。その後、亡くなった父が作っていたぶどうと梨から花に切り替え、28歳の時に後を継ぎました。

「後継者育成資金」を活用し

ようと考え、福岡県の指定品目だった「ガーベラ」の栽培からスタートします。ガーベラで売り上げを確保し、一年半後にカサブランカの栽培に切り替えました。それからは、カサブランカの栽培に注力し、広川町農協と福岡花卉農協に出荷する中で、「公彦の花」と呼ばれるようになりまし

### あじさいの切り花

た。広川町で、農協OBや花生産者が集まり、花部会を立ち上げ、周りも一斉にユリの栽培を始めました。すると市場相場は一気に崩れ、ユリの価格は下落していく一方です。撤退する人が増える中で、今度

はカサブランカと抱き合わせで「あじさいの切り花」を販売しようと考え、あじさいの栽培も始めます。

都会では緑色のあじさいに需要があり、その要望に応えるため、緑色にするための研究をし、栽培技術を習得しました。切り花のため、出荷方法も研究に研究を重ね、鮮度が落ちないように全国に出荷できる方法を編み出しました。

### 需要と供給

私が農業を始めようと思っただきつかけは、「やり方次第で農業は儲かる」「時間もお金も自由に使える」というところにあります。

何が売れる時代かをリサーチし、ニーズがあるものをつくれるようになれば、それは必ず売れます。

### 農業は面白い

「農業は面白かぜ。自分のやりたいようにやってよかけんね。責任も全部自分。だから悔やみ事がないね」



主に「バラ」を栽培する  
園田将生さん

### 仕事の原動力

バラの栽培は父が始め、小さいころから手伝う中で、お客さまが喜んでくれる顔を見ってきました。私もその笑顔をつくりたいと思ったのが、就農したきっかけです。

コロナ期に、直売所だけの販売に切り替え、さまざまなお客さまに求められるよう、ユリやストック、フリージアなどの栽培も始めました。

仕事は暑さとの戦いで、近年の猛暑で花が育ちににくく、温度管理が大変です。しかし、お客さまとの対話は、私に活力を与えてくれます。今後もこの直販の醍醐味を味わいながら、栽培品種を増やしていきたいと考えています。



主に「ユリ」を栽培する  
渡辺満夫さん

### バブル崩壊で一変したバラの栽培

18歳で就農し、八女で父と電照菊を10年栽培しました。

下広川地区で農地の基盤整備が始まるときに、知人と共同

で補助金制度を活用してハウスを建て、バラの栽培を始めます。しかし、ちょうどバブル崩壊の時期と重なり、花の

単価はどんどん下がっていき、バブル時は、平均して坪単価7万円の売り上げが

期待できましたが、バブルが終わると坪単価1万円まで下がってしまいました。

あつという間にバラの栽培は赤字になり、一定の収入を確保できるよう、半分を菊の栽培に切り替えました。菊は

常に一定の需要があるため、安定した収入が期待できます。そこからユリの栽培も始め、30年以上になります。

### 良いものは信用につながる

花の栽培は、水管理と温度管理がとにかく大事。近年の猛暑・残暑は、秋口の出荷に影響しています。このように農業は自然相手のため、思うようにいかないことは多々あります。でもそんな話を、仲間と酒を飲みながら笑いとばしていましたね。

どうせつくるなら良い物を。良い物はお客さまの信用につながります。そして何より、自分の作品が評価されると嬉しいですね。

### 出荷時のこだわり

菊の栽培は父が始め、私が2代目、娘で3代目になり、現在、インドネシア人の研修

生を含め、8人で畑を管理しています。約9年前に、輪菊の栽培からスプレー菊の栽培

に変えました。500坪ハウス5部屋を20日間隔で植え付けていき、収穫した菊は福岡の市場に出荷しています。

お客さまの要望で、つぼみの状態で出荷することもありますが、つぼみの状態から開花するときエネルギーを必要とするため、私たちは満開

の直前で出荷するようにしています。菊に「がんばれ」と声をかけてやりながら栽培するの

のもポイントですね。



「スプレー菊」を栽培する  
鶴基さん 重富千佳永さん

### 生産者減少の問題

米や野菜などの生活必需品の価格が上がると、嗜好品で

ある花は売れなくなり、当然生産者は減少する。しつかり経済が回るようになってほしいですね。

みんなが楽しみながら栽培できる環境づくりを大切にしています。

現在、市場への出荷のみならず、全国の花屋さんに直接販売できる媒体を活用し、販路を開拓しています。そのと

きに花屋さんからお客さまの声を聞くようにし、ニーズの把握に役立てています。

大切にしていること

### 広川という土地にこだわり、栽培を続けていきたい

兄が八女でトマトやガーベラを栽培しており、その手伝

いをした後、昨年に独立して広川町でガーベラ栽培を始め

ました。就農する前は農協で営農指導員をしており、生産者の人たちと関わる中で

「かっこいいな」という憧れがあり、それが就農したきっかけです。

ガーベラ部会全体の面積が減少していく中で、広川という土地にこだわり、ガーベラで面積を拡大していきたいと考えています。地域の人たちとの信頼関係を大切に、次の

世代に継承していきたいよう、栽培を続けていきます。



ガーベラ栽培・新規就農者  
平井一樹さん